

研究の欠落部分を埋める史料群

戸部良一

本多熊太郎はやや異色の外交官である。明治期に小村外交を支えたが、大正末期にドイツ大使を務めた後、外務省勇退を余儀なくされ、それからほぼ一五年を経て中国大使に復活・起用された。その間、彼は外交評論家として対外硬の立場から政府の外交を厳しく批判し、しばしば政治的活動にも傾斜した。この『関係文書』の手記や書翰には、外交官時代と在野時代の様々な人物との交流を含む彼の異色の経歴が、よく反映されている。最も注目されるのは、やはり中国(南京)の汪兆銘政権(大使時代の外交記録である。日本は汪政権との間にどのような関係を構築しようとしたのか。また重慶の蒋介石政権との和平をいかにして達成しようとしたのか。この『関係文書』には、外交史料館に所蔵されていない当該時期の貴重な記録も収録されている。こうした史料を用いることによって、これまでの研究の欠落部分を補い、さらに新たな方向に研究を展開させる可能性も出てくるだろう。

(とべりょういち 帝京大学文学部教授)



本書でしか読むことのできない記録により 初めて明かされる近現代史の裏面の数々!

本書の特色

- 1 本書は、戦前に外交官・外交評論家であった本多熊太郎に関して、御遺族が所蔵する未発掘・初公開の史料と、国会図書館憲政資料室・防衛省防衛研究所・國學院大學図書館・徳富蘇峰記念館所蔵の未使用の史料を翻刻して紹介した、近現代史を研究する上で欠かすことのできない第一級の史料集である。
- 2 田中義一、寺内正毅、徳富蘇峰、立花小一郎、松岡洋右、天羽英二、有田八郎、板垣征四郎、嶋田繁太郎、山下亀三郎、芳沢謙吉、吉田茂、汪兆銘、周仏海ら、明治・大正・昭和の各時代をいろどった人物たちと交わした書翰や電報により、歴史の生々しい裏面を知ることができる。
- 3 駐華大使として南京に在勤中の昭和一五年から昭和一六年までの外交記録類は、外務省外交史料館所蔵の外務省記録には見当たらず、『日本外交文書』にも未収録のきわめて貴重な文書群である。本書でしか読むことのできないこれら記録は、汪兆銘政権の実態と日本との関係はいままでもなく、汪の人となりを考える上でも不可欠の史料である。
- 4 汪兆銘政権の強化や汪自身の訪日をめぐる彼と本多との会談録、汪と近衛文磨首相・松岡洋右外相・東条英機陸相・及川古志郎海相・河田烈蔵相との会談録、日米交渉に関して本多大使と豊田貞次郎外相との間で交わされた極秘電報・文書など、これまで知られていなかった歴史の重要な局面が本書によって初めて明らかとなった。
- 5 本多熊太郎とその文書に関する解題のほか、詳細な年譜、関係文書目録、著述目録を完全網羅することで、彼の全業績が一望のものとなった。まさしく本多熊太郎に関する史料の決定版である。
- 6 桂太郎、後藤新平、小村寿太郎、若槻礼次郎、広田弘毅、重光葵、堀内謙介、珍田捨巳、寺内寿一、南次郎、杉山元、梅津美治郎、永野修身、豊田副武、影佐禎昭、平沼騏一郎ら、本多がポーツマス会議時や、駐清公使館勤務時代、駐英大使館勤務時代、駐華大使時代などに要人たちとともに撮影した貴重な写真を巻頭にカラーで掲載した。

本多熊太郎関係文書

定価・本体二八、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-336-06147-8

二〇一八年五月一日発売

【造本・体裁】

A5判(二一〇×一四八)、上製クロス装、貼函入

八〇八頁

本文組Ⅱ二・五Q一段組



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 Tel03-5970-7421 Fax03-5970-7427 URL:http://www.kokusho.co.jp E-mail:info@kokusho.co.jp

帖合・書店印

申込書

国書刊行会『本多熊太郎関係文書』を_____部申し込みます。

お名前

ご住所

お電話

*必要事項をご記入のうえ、書店へお渡しください。



推薦の辞

柴田紳一

【推薦のことば】

白井勝美先生執筆の『国史大辞典』(吉川弘文館)第十二巻「本多熊太郎」の項目には「昭和前期、対欧米硬派の異色の外交官また外交評論家として著名な存在であった」と記されている。ひるがえって現在はどうであろうか。おそらく本多の名を知るものは絶無に近いと思われる(本多が頻出する吉村昭著「ポーツマスの旗」も今や読まれることは少ない)。同じ外交官で戦後宰相となる吉田茂のわずか四歳年上とはいえ、今からちょうど七十年前、吉田が第二次内閣の首班に返り咲く頃、世を去った本多の知名度が、現在そのようであることは、ある意味で自然なことかも知れない。だが、逆説的にいえば、であるからこそいま本書『本多熊太郎関係文書』という一大労編が現出したともいえる。

編者の高橋勝浩氏は、日本近代史の優れた研究者として、また人物に関わる緻密な史料集の編者として、またその周到かつ堅実な姿勢・手法からなる諸成果に対して、つとに定評がある。本書により、本多という奇才に対する本格的研究が切り開かれていく、その期待をここに表明し、推薦の辞としたい。

(しばたしんいち 國學院大學文学部准教授)

未発掘・初公開の史料を網羅した近現代史研究の第二級史料 本多熊太郎関係文書



高橋勝浩(編)

国書刊行会

